への取調べは一般常識をはるかに越えた長時間に渡る厳しいものであるにせよ、完黙で斗っているのは二人だけとは悲しい現実である。この問題を個々人の思想性の問題としてのみとらえるのは正しくない。兵士達の強固な思想は、革命の路線をはっきりさせ、人民内部の団結を育てるが、逆に兵士達の強固な思想は革命の正しい路線の中で増々強固になってゆくという相互の関係なら、自供の根絶は、路線と団結の問題として検討されねばならないと考える。「判事に上申書を書いて、我々の実践と論理を全人民の前に明らかにする。」これは「誰が味方で、誰が敵なのか？」という基本的な問題を全く曖昧にし、且つ敵につけ入るすきを与え、時には味方解体の危機に陥し込める反革命行為である。獄内と唯一運動として共有できる公判での斗争を重視し、完黙で斗っている兵士を力づけよう。そして囚われの兵士に対しては、その救援を貫徹しなければならない。

彼らは敵の手中にあり、破防法―保安処分―監獄法等のきびしい弾圧を一身に、しかも先鋭的に受けている。我々は敵権力の彼らへの弾圧に対して斗いをいどまねばならないし、その醜悪な意図を全面的に暴露しなければならない。この暴露を通して「死刑の廃止」「人民の軍隊の防衛」「破防法―保安処分―監獄法粉砕」「刑法改悪阻止」「軍事裁判化阻止」等の大運動を組織せねばならない。且つ敵権力によって精神的にも物理的にも悲惨な情況に追い込まれている遺族及び囚われの兵士の家族の問題がある。彼らも最も抑圧された人民として、互いに助け合い、革命戦争の一翼を担うべく、反弾圧抵抗戦線―家族会として団結―組織されねばならない。この厳しい斗いの中から、故連合赤軍兵士を心から追悼すると共に、革命運動の中でこの世を去っていった彼らの共同墓碑（別紙参照）をつくりたいと考えている。閉鎖的な血縁関係の中で葬られるのは革命に命を捧げた兵士達の本意ではないだろうし、我々自身が彼らの死を無駄にしない為に教訓として生かし切り、いつでも彼ら兵士達の前に佇むことができる様願って共同墓碑の設立に多くの人々の協力を訴えたい。

同志たちの冥福を祈る。

銃撃戦の開始万歳！

故連合赤軍兵士追悼！

破防法―保安処分攻撃粉砕！

「連合赤軍公判対策委員会」設置への呼びかけ

A.はじめに、

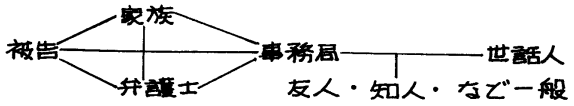
運動の昂揚局面よりも、敗北局面においてこそ、日頃、その戦斗的・革命的言辞で装飾していた運動主体の真価が問われるものである。両者は不可分の冷厳たる現実であるにも拘らず、連合赤軍兵士の体現した武装斗争のリアリティは、「銃撃戦」―「党内軍内矛盾―処刑」を前後にして、権力・マスコミの悪意と偏見の下に報道された。「銃撃戦」として体現された連合赤軍兵士の英雄的死斗については、共に斗うものとしての支持声明は、おろか、何ら意志表示もせず、結果的には、権力・マスコミの総攻撃を容認した多くの部分が今や「党内軍内矛盾―処刑」が表面化するや、それをもって何と厚顔にも、鬼の首でもとったかの如く、連合赤軍兵士の死斗によってのみ体現された武装斗争のリアリティをこきおろし、又、何と破廉恥にも、自らのみが免罪されるかの如く、その冷厳たる深淵を、空虚な理想像をもって対置し、論評している。ましてや、権力の手中に捕りょとなっている兵士たちへの「異常性格」云々の人格論議など論外である。我々は、今回の両者不可分なる現実を、「人民の軍隊―人民、の関係の在り方、及びそれを包括するところの人民内部の団結の在り方、そしてその矛盾の止揚の在り方」の問題として把えると共に、その現実を、皆無といっていい程に、ほとんど共有しえなかったことにおいて、連合赤軍兵士をして今回の事態に至らしめた責任を、自ら自身も五十歩百歩に同罪であることとして共有するものである。

我々は、かかる責任において、連合赤軍兵士自身の政治的見解の公開の保障、事実関係（真相）の調査、集約各関係者の見解の集約などの任務を通じ、近い将来、決して権力の手中において、今回の現実が、そしてその主役たる連合赤軍兵士が審判され、且つ、二度と共に斗う仲間同志間でかかる悲劇が起こらないよう、自ら自身の又、後に続かんとする若い仲間たちの教訓へと血肉化すべく、その苛酷で、長期にわたる作業の一翼を担うであろう。

最後に、全ての兄弟たちへ

今こそ、原則を堅持し、大同団結し、その恐怖ゆえに、狂奔する権力、マスコミの総攻撃に抗してゆこう。そして、何としても、七十年代版「六全協」の再演を許してはならないことを再確認しよう。

B.構成、



C. 行動方針（要旨）

(1) 弁護士，被告家族の立場を尊重し，両者の諸活動，両者間のコミュニケートなどを援助する。

(2) 事実関係（真相）を，調査・集約し，被告自身の政治的見解の表明を保障し，それらを通して，全人民への報告書を作成し，提出する。又，それ媒介におこる全人民的規模での一大論争を，保障し集約する。

(3) 本公判を契機に，強化・拡大される死刑・保安処分・世論操作などの，権力・マスコミの総■攻撃に対し，ありとあらゆる方法で抗する。

☆. 故，連合赤軍兵士，追悼の意をもっての，「共同墓碑」に■設立に関しては，別紙を参照されたし。

1972・3・31
日本赤色救援会

共同墓碑設立への呼びかけ

あらゆる場で，様々なかかわりかたで，幾多の矛盾を止揚すべく，人間性の回復を克ち取るために，真の解放を目指して斗い続けている全ての同志・兄弟たち！

今回の「事件」のショックは言語を絶する程の重さで我々にのしかかり，胸の空洞を吹きぬける一陣の風すら我々は防ぐ術を知らない。しかし，この深刻な問題を正面から受けとめ，いささかも曖昧にすることなく敵権力のあらゆる攻撃に抗しつつ，自己の思想性をかけて事実の究明を行い，根底的な総括をすると共に，これを歴史的な反面教訓としてゆきたい。又，そうすることが■14名の故同志たちを心から悼むこととなり，革命運動総体の前進にもつながることになるでありましょう。

又，人民内部の矛盾として階級斗争の犠牲者となった彼らは，最後まで，我々と同様のまっかなプロレタリア精神を志向していたことを信じて疑いません。我々は彼らの遺志をひきつぎ，かならずや革命戦争を勝利にみちびくためのいかなる努力をも辞さないでありましょう。そうであるが故

に，御家族・友人でのみ，個別に墓を築くだけでなく，共通の意志として墓碑をたてることを自己目的化することなく，我々の胸に彼らの怨哀を刻印として秘めるのみに終らず，我々の胸のうちを共同墓碑として具体化したいと考えます。

この提案に賛同して，適切な土地を提供して下さる方，あるいは御紹介下さる方，又は基金のカンパをして下さる方，等々の積極的な御協力を心から酔えたいと思います。

もっぷる社発行出版物

★去っぷる NO.0 一〇〇円
★去っぷる NO.1 二五〇円
★12・18 二〇〇円
★月03 三〇〇円
★「去っぷる通信」
半年 八〇〇円
一年 五〇〇円

★取扱書店
（東京）
・模索舎・吉祥寺ワニタ
・内山書店・コマバ書店
・アジアン書房・
★各書店か去っぷる社へ現金書留で。

★ H.J支援委編・発行「不死鳥作戦」No.2.3.4
各50～100円

特別アピール1.
「共産主義者同盟赤軍派」

「我々は明日のジョーである」―二年前の本日，我が赤軍派の精鋭の同志たち九名は，そう宣言し，全世界の闘う兄弟たちの下に飛躍した。我々は，多くの兄弟，友人の全てを前に，その比類なき勇気と，その限りない希望を示したこのよど号ハイジャックを「不死鳥（フェニックス）作戦」と呼び，革命戦争の赤光が不滅であることを，そして我が赤軍派の赤い血■もまた，不滅であることを誇りをもって再確認した。

そうしたよど号ハイジャックの二周年でもある本集会に際し，まずもって我々は，この不死鳥（フェニックス）精神こそ，我が赤軍派のそれであり，あの銃撃戦を闘った連合赤軍兵士のそれであり，また苛酷にも同志間の矛盾を負い倒れた故連合赤軍兵士のそれであることを，そしてかかる精神を絆にして銃撃戦を闘った連合赤軍兵士も，倒れた故連合赤軍兵士も，残った我々も，全て同志であり，兄弟であることを，今一度声を大にして宣言しよう。

故連合赤軍兵士たちよ。我々はこの宣言をもって，諸君らへの追悼の意としよう。諸君らも，我